

おもしろ言葉 ～こどものちから～

ゆうかい警報発令

本日、京都市全域にゆうかい警報が発令された。

前日、小学校では誘拐に備えて登下校には保護者が付き添うよう言い渡された。

我が家では前夜より会議が開かれ、紛糾の末、娘は小学校を休むこととなった。

当日朝、布団にて

3歳息子：お父さん、ようかいに会ったことある？

父：うーん、あるかな

6歳娘：えー、あるの！？あー、おばけ屋敷であったことならあるね

3歳息子：ようかいって飛ぶんだよね？

父：そうやね、ぴゅーって飛ぶかな。ようかい怖いのか？

3歳息子：うん、こわい

6歳娘：お父さん、ようかいやっつけられるよ。鬼さんもやっつけるもんね。

父：うん、お父さん、ようかいやっつけるよ。

その後、布団にくるまってポジション争いをする娘と息子

6歳娘：ゆうかいこわいよー

3歳息子：ようかいこわいよー

(2022.7.5)

パパってダンディだよな？

6歳娘

娘：ねえねえ、パパってダンディだよな？

父：ん？ああ、まあな。どうしたん。

娘：だって、ママはマミーでしょ、パパはダンディで。

(2022.8.15)

受診をやっつけて！

3歳息子と

父：明日受診してアルピニーをもらっておこう

息子：明日じしんあるの？

母：じ「ゆ」しん

息子：じしん？

父：じ「ゆ」しん

息子：じゅしんいやだ。お父さん明日じしんくるの？

父：地震はこないよ

息子：じゃあ、ひなんくんれんは？

父：ひなんくんれんってなに？

息子：にげるんだよ

父：何から逃げるの？

息子：じしんから

父：地震は嫌い？

息子：うん、きらい

父：避難訓練は？

息子：きらい。じしんも、じゅし「ん」もきらい。

お父さん、明日じしんやっつけて

父：やっつけよっか。

息子：うん。じしんのかみなりやっつけて。

しばらくして

息子：じしん来たらみや（1歳）はどうするの？

父：みやも避難するよ

息子：じしん来たらみや（1歳）はどうするの？

父：みやも逃げるよ

息子：どうやって？はしるの？

父：お父さんが抱っこして逃げるよ

息子：Kちゃん（自分）とMちゃん（6歳姉）はどうするの？

父：みんなお父さんが抱っこするよ

息子：えっ。お母さんはどうするの？

父：抱っこするよ

息子：えっ！

どうすんの、こうやってぴゅーつて走るの？こうやって？

（1歳娘が起きて泣きだす）

（2022.8.23）

そんなこと言ってたら、あかなめから電話くるよ

6歳娘が、だだをこねる3歳息子をたしなめる

娘：そんなこと言ってたら、あかなめから電話くるよ

息子：ママ、こないよね？

母親が、風呂に入らない3歳息子に教諭す

母親：お風呂入らないと、あかなめがきて舐め回すんだからね

息子：ママ、あかなめ来ないよね？

母親：お風呂に入ったらこないよ

3歳息子が母親におねだりする

息子：ママ、あかなめやって

母親：あかなめー、なめなめー

息子、娘：きゃー

やはり子どもには異界の言葉がなじむらしい

（2022.10.2）

中とろウイルス

6歳娘、3歳息子

父：受診してどうやったん？

母：ニュートロ？ウイルスって言うてはったかな

娘：中とろウイルス？え、中とろを食べるウイルスなの？

息子：中とろ食べるウイルスなんじゃない

ヒトメタニューモウイルスが正解であった。

おそらく医師の説明は次のようだったろう。

「Neutro（Neutrophil；好中球）が少なくウイルス性ですね。抗体陽性だから、ヒトメタニューモウイルスですね」

これらは妻の中でニュートロウイルスとなったのだろう。

そしてそれが、子供たちによって中とろウイルスへと至った。

（2022.10.19）

人間はいつか必ず死ぬんだよ

7歳娘と

父：あの人刺されたんだってね

母：ニュースでやってたね

娘：え、その人死んだの？
父：え、あの、その、全然死んでないよ。
誰も刺されてないし、誰も死なないよ。
へへへ。
娘：何言ってるの、人間はいつか必ず死ぬんだよ。知らないの。
(2023.1.19)

九州

7歳娘と
娘：九州にはアメはあるの？
父：あるよ
娘：え、グミもあるの？
父：あるよ
娘：え、じゃあ、チョコも？
父：あるよ、コンビニもあるんだから
娘：え、すごい！九州って日本よりも広いの？
(2023.1.19)

めめ

1歳8ヶ月の娘
我が家の食卓は魚が多い。
父が魚好きだからである。
それを反映して、子供たちも魚好きになる。
鯛は乳幼児の食卓への食材としては敬遠されがちである。
何せ骨が硬い。
飲み込めば、内視鏡でもって取り除くなどということが十分ありうる。
あなおそろし。
しかし、虎穴に入らずんば虎子を得られない。
骨周りの肉というものは肉でも魚でも、

最も旨い。
かつ、鯛の頭は安い。
安ければ200円で一つの頭を買える。
今では7歳の娘が陣頭指揮をとって、鯛の頭を解剖し、3歳の弟と1歳8ヶ月の妹に安全な魚肉を供給するというのが日常となっている。
中でも、コラーゲンが豊富な眼球は希少である。
何せ一つの鯛の頭に、一つしかない。
7歳の姉も1歳の頃からその味を知っており、いつしか「めめ」と呼称するのようになった。
後に生まれた弟もその味を知ることとなり、一つの頭を巡って「めめ」の奪い合いとなる。
自然状態に争いは絶えぬ。希少なものを誰が獲得するかは、親の愛の獲得に等しい熾烈な意味を帯びる。
近頃は鯛の頭を二つ買って帰るようにしている。
1歳8ヶ月の娘も「めめ」と姉と弟が言い合うときには、鯛の頭が食えると理解している。
彼女のなかで、「めめ」は鯛の頭らしい。時に魚全般を指しているようにも思える。
近い将来、リュックの中に鯛の頭を3つ揃えて帰る日がくるだろう。
我が家のヴィタ・アリメンタリアはかくのごとく象られていく。
(2023.1.19)

はちがくる花

父：この花なんていうか知ってる？

4歳息子：はちがくる花！
7歳娘：ふじの花
4歳息子：はちがくる花やで
7歳娘：そうなん
4歳息子：かんちゃんの幼稚園にある花
やで。はちがくる花。
(2023.4.18)

まつぼっくりの木

4歳息子と
父：この木なんの木か知ってる？
息子：知らん
父：まつの木やで。まつぼっくりのやつ。
息子：この木なんの木って聞いて
父：この木なんの木？
息子：まつぼっくりの木！
息子：この木なんの木って聞いて
父：この木なんの木？
息子：まつぼっくりの木！
息子：この木なんの木って聞いて
父：この木なんの木？
息子：さくらの木
父：んーこれはももの木かなあ
父：この木なんの木？
息子：まつぼっくりの木！
(2023.4.30)

氷と雨と晴れだったら、どうする？

4歳息子：雨と晴れだったら、どうす
る？
父：なんて？
4歳息子：氷と雨と晴れだったら、どう
する？
父：全部？
4歳息子：うん

父：うーん・・・傘をもってくかなあ
4歳息子：ぶー、地震だよ
父：地震？地震だったら、雨と氷が降っ
て晴れにもなるの？
4歳息子：うん
7歳娘：地震はただ地震だけだよ
父：地震怖いの？
4歳息子：うん、怖い。地震もおばけも
怖い。
(2023.5.5)

ぶつぶつ病院

4歳息子の顔面に小丘疹ができたので、
皮膚科クリニックに診てもらった。

おそらくは、私が「顔のぶつぶつをみて
もらいにいこう」と言ったのだろう。
息子はクリニックの前で順番待ちをして
いる見知らぬママに
「ここ、ぶつぶつ病院なんやで知って
る？」
と嬉しそうに話しかけていた。
そのママは苦笑いとも愛想笑いともつか
ぬ表情をみせていた。

帰りみちのこと

父：ぶつぶつ病院ってなんなん
息子：ぶつぶつ病院でしょ。さっき行っ
てたところでしょ
父：ほんで、ぶつぶつ病院は何するところ
なのよ
息子：さっき行ったところでしょ。知って
るでしょ！

ちなみに、ぶつぶつはとびひであった。

抗菌薬の内服でものの1日で目立たなくなつた。

(2023.5.21)

ずるいでしょ？

最近、7歳、4歳、2歳の子供たちの間で
ずるさ自慢が流行っている
同じ食事でも、大きさや味のよい部位など
でより優れたものを手にしている時に、
嬉々として自分がずるいポジションにある
ことを顕示する
ずるいでしょ？
と承認を求める
子の誰かを抱っこしている時も、羨望の
まなざしが刺さる
ずるいという声なき声が聞こえてくる
このように、他者の欲望としての〈私〉
の欲望（ラカン）は自然な家庭で容易に
観察される
同胞は親の愛を奪い合うライバルである
（フロイト）
自然状態では万人が万人に対して闘争する
（ホップズ）
それでは身がもたぬ
争いは辛い。痛い。血が流れる。
よって、現実原則が上からふってくる、
父に委ねる（去勢、フロイト）
自然権を国家、リヴァイアサンへ譲渡する
（ホップズ）
快感原則から現実原則へ（フロイト）
争いから平和へ、現実の美しき妥協へ
やはり対話しかない
マスターベーション（のみ）ではなく、
交歓も

モノログ（のみ）ではなく、ダイア
ログも

高まった緊張を対話でドレナージしな
ければならぬ

全ては循環のなかにある

だって、そうでしょう

権力は監視しなければ、などと言う時、
ダイアログをしましようなどと、ぬけ
ぬけと言う時、

それはセクハラだとか、パワハラだとか、
喫煙はダメだとか他者に言う時、

あなたは、あなた自身の権力を自覚して
いますか、

と、私は気になる

卑近な場面で言えば、あなたが父親であ
る場合、あなたは子に発揮している権力
に自覚的ですか

私は私が日々行使している権力のあれこ
れに、日々うんざりしている（だからな
んだという話なのだが）

私が怒った時に、子のまなざしが、いの
一番に私に注がれるとき、やりきれぬ思
いがする

そのようにまなざさないで欲しいと願う

（随分と身勝手な権力なこと。そしてそ
のことにまたうんざりする）

子と接するのみならず、誰と話す時も、
権威的な自分が立ち上がる様が自覚され
るとき、その刹那、ないし事後的にうん
ざりする

かくして王様は孤独である

だから植物がよい

植物には権力の無自覚性がない

また同じ場所で私に挨拶をしてくれる。

同じまなざしで。
今年もヤマボウシが、アジサイが咲き始
めた
タチアオイという佇まいの美しい、気品
高い花とも出会った
愛おしい
王様でなくとも、権力はあらゆる場面で
やはりある
地位や立場、人生経験の差などといった
差異だけではない
方言の差といった瑣末な差異ですら生じ
る
情報の非対称性はポジションに関わらず
常にある
<私>と<あなた>の差だけ、そのまま
ある
2者が話すとき dia (2人の中で) logue に
ならないのは、どちらか一方が、あるい
は両者が monologue しているからである
我々はみな王様なのである
王様は孤独で最も退屈なのだ (パスカル)
ユゴーの描くルイ 11 世も退屈にうんざり
している (ノートル=ダム・ド・パリ)
孤独な王様たちがなんやかんやと tweet し
ている
モノログもよいのだ
もちろんよい
自分と対話することは耕すことだ
マスターベーションもよい
おのが想像力を自由に発露させればよい
しかし、この我が身我が土地という必然
性を離れれば絶望が待っている (キルケ
ゴール)
他者と交わるのであれば、

ヤマアラシ同士が暖め合うことを意図す
るならば (ショーペンハウアー)
お互いのトゲでもって傷つけ高まる緊張
をドレナージしなければならぬ
それは、一方的に一者が勝ち、他方が負
けることではない
それでは、快感原則に身を任せた自然状
態にすぎぬ
めいめいの小さな王様が、おのが土地の
取り分を争って悲喜交々しているに過ぎ
ぬ
王位を維持する限り、交歓は起きない
そこに支配はあっても愛はない
玉座から離れぬ者の前戯はさぞつまらん
だろうな
相手が本当にいったかどうかも分からん
のだろう
それはマスターベーションである
同様に、抽象のモノログはマスターベ
ーションである
交歓が必要なのだ、具体的な愛のある交
歓が
愛し合わなければならぬ
自我の玉座からおりたマイノリティ同士
が愛し合うのだ (近頃の若者はそれを脱
構築と言うらしい)
私はマイノリティである
しかし、あなたもまたマイノリティなの
だ
(2023.5.28)

エピソードは随時募集しております。応
募は下記のメールアドレスまでお願いい
たします。

rinshoubungeiigakukai@gmail.com